

(様式2-2)

令和6年度「校内サポートルーム(KSR)研究指定校事業」成果報告書

1 指定校・指定校群 (観音寺市立豊浜中学校)

2 実施の内容

今年度校内サポートルーム設置から2年目を迎えたことや4月のPTA総会で保護者に取組を説明したことでKSRの認知が進んでいる。そのため、不登校生徒の入級割合は昨年度25%だったが、本年度は50%になっている。

今年度、KSRに3名在籍しており、状況は次のとおりである。昨年度からの継続実施校のため、主に昨年度との相違点と今年度の実施内容を報告する。

生徒	学年 性別	R5欠席数	R6欠席数 (12月末)	R6欠席数 (10月末) 前半	学校行事への参加状況			
					運動会 5/25	A修学旅行6/2-5 BC職場体験9/25-27	合唱 11/1	その他 (A支援学校との交流9/27) (BC立志式2/5)
A	3・女	139	7	6	欠席	すべて参加	見学	支援学校との交流に参加 所属学級の体育授業に2回参加
B	2・男	41	47	28	見学(オンライン)	事前のみ参加	欠席	所属学級の授業にオンラインで参加 立志式へ色紙提出
C	2・女	41	42	29	見学(オンライン)	すべて参加	欠席	立志式へ色紙提出

【表1 KSR在籍生徒の実態】

(1)居場所づくり

昨年度に続き、KSRに通級する生徒が通用する門や自転車置き場は、他の生徒の目につかないように工夫している。

今年度、新規に配置されたKSR担当が常駐する体制へ変更し、生徒が安心して通えること、そのために信頼関係を構築することを第一に考えて取り組んだ。特に、学校＝勉強と思い込ませないように配慮した。勉強は大切だが、生徒の中で、学校＝安心、学校＝楽しいとなり学校へ来ることへの抵抗感がなくなるよう意識した。「話しやすい人」「接しやすい人」が学校にいることが重要と考え、生徒と積極的なコミュニケーションを図った。

半年が過ぎた10月頃から、生徒の表情も和らぎ、生徒から担任に話しかける回数が増えた。

(2)社会的な自立に向けての支援

	目的・目標	具体的な手立て
1 学期	①生活リズムを整え、学校に来ること ②学校の滞在時間を増やすこと	○各自のペースや状況を受け入れる。 ○共通の話題を見つける。
2 学期	①時間(期日)を意識すること ②学校行事への参加(見学を含む)	○期日のある書類を提出すること。 ○1~2週間先の予定を伝え、生徒自らが考え取り組めるよう担当者が促した。特に、無理な目標設定はしないよう配慮した。

1学期は表1のとおり、前半出席日数は改善傾向(A)または昨年度と同様(B・C)であった。

2学期は、校内行事あるいは校外の方と接する行事に参加できるよう声をかけた。表1のとおり、一部のみになった生徒もいるが、今年度3名全員が行事に一度以上参加できた。

(3)学習環境

今年度から、KSRに一部の教科書等を置き、自身で整理整頓するようにした。これにより、登校時に複数教科の学習に取り組むようになった。また、タブレットの常時使用やオンライン授業等の活用ができるよう、KSR内で管理することに変更した。

KSR在籍生徒が所属する学級通信や学年通信を掲示し、同級生の様子が感じられるようにした。校内行事や学年団の活動では、所属学級の生徒よりも少し早めに周知し心の準備やできることを事前にKSR内でリハーサルするなど、教室の動きに合わせた活動を行った。

(4) SCを活用した組織的な支援体制

SCは、本校と豊浜小を複数年兼務しており、生徒の人間関係や家族の状況等の情報共有がスムーズに行われている。SCがKSRに来て、生徒と直接会話をして表情や話し方から読み取れたことを、KSR担任と情報共有し、より適切な支援につなげている。また、教職員全体には、校内支援委員会で伝えたり職員会で各学年主任から話をしたりして共通理解を図った。

3 成果

(1) 校内サポートルームにおける児童生徒の様子

今年度から担任を常駐体制としたため、生徒はいつでも教員がいることへの安心感を感じているようだ。特にAは、表1のとおり欠席日数が大幅に減少しており、3年生で進路決定もあるが担任との良好な信頼関係が根底にあり、安心感を感じていると考えている。年度当初なかなか自信が持てず定期テストを受けていない状況であったが、日々の会話の中で少しずつ嫌なイメージをポジティブに捉えていこうと話をし、1学期期末テストから受験できるようになり、それ以降のテストすべて受験できている。

Cは、入級時から他者の視線を遮り学習に集中するためパーテーションを利用していたが、Cにとって安心して通える居場所と判断したと考えたため、本人の申し出により、現在は外している。また、その直後のテスト週間には「勉強を教えてください」、別の作業中には「先生。次どうするのか教えてください」など自ら声をかけてくれるようになった。

(2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

家庭科など担任が指導できない教科については、教科担任と日程調整を行うことで作品づくりを行うことができた。

担任は、在籍生徒との会話の中で、自らの言葉で活動を決定する機会を多く作る支援を考えた。「YES」、「NO」のみで答えることができる問いかけはあまり多くしないよう意識した。具体的には、「どうしたいのか」という問いに対し、答えられない場合には、いくつか選択肢を用意し自己決定させるようにした。

総合的な学習や入試に関わる内容は、なるべく参加(教室と同じように)できるよう担任や各学年団の教員との連携を意識した。生徒は可能な範囲で教室に入ったり、KSRで説明を聞いたりして活動することができた。

(3) 総括

昨年度からの継続実施校のため、昨年度の経験を活かしたテストや通知表等の対応など、教職員間の共通理解がスムーズに行われている。また、KSRが学校内での居場所として認識が進んでおり、担任はもちろん教科担任や学年主任がKSRを訪れるなどし、多くの教員がかかわる雰囲気が続いている。

今年度から担任が常駐し、生徒とのコミュニケーションが取りやすく、生徒が自ら自身について話すことや本音に近い意見を発言することが増え、信頼関係の構築とともにきめ細やかな生徒理解や個別指導につなげることができた。この背景を踏まえ、今年度目標の一つとしていた「学校行事への参加」について、本人の意思を確認し希望した形で参加できるよう話や作業を行うことができた。また、進路や入試対策なども行うことができた。本人の自立を旨とし、やるべきことを自分で決めて自分のペースで行動するよう促し、無理なく進めることができた。

その結果、AはR6欠席日数が7日と大幅な減少につながり、私立高校に合格し、県立高校受験に向けて日々努力している姿が今年度の成果と考えている。

【次年度に向けて】

昨年度、今年度の経験ならびにモデル校の取組を参考に、次の3つの実践を行いたいと考えている。

- ① 養護教諭によるカウンセリング時間の設定や「心の元気度チェック」の実施(学期に1回程度)
- ② KSRに在籍する生徒で企画・運営する「みんなの時間」の設定(学期に1回、年3回程度)
- ③ 担任との信頼関係構築に向けた「日記のやりとり」やタブレットによる「健康観察の実施」